

ゲノム制御学セミナー

2009年3月6日(金) 17:00~18:00

於 疾患ゲノム研究センター (1F) セミナー室

筋萎縮性側索硬化症における小胞体ストレス誘導性 神経細胞死の分子メカニズム

西頭 英起博士

東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報 特任研究員

西頭英起博士は、現在、小胞体からのタンパク質分解機構とその破綻による小胞体ストレス誘導性細胞死の分子機構の解明を目的として精力的に研究を行っています。近年コンフォメーションナル病(とくに神経変性疾患)において小胞体ストレスの関与が示されており、小胞体の品質管理機構を明らかにすることは、様々な疾患の病態分子機構の解明に繋がり、その意義は大きく、注目されています。今回は、筋萎縮性側索硬化症(ALS)における小胞体ストレス誘導性神経細胞死の分子メカニズムについてご講演していただく予定です。多数の方のご参加をお待ちしております。

なお、本セミナーは大学院医科学教育部特別講義を兼ねています。

問い合わせ先：

片桐 豊雅 (疾患ゲノム研究センター、tkatagi@genome.tokushima-u.ac.jp)